

課題名：要間伐林分の効率的施業法の開発

主査氏名（所属）：埤田 宏（研究管理官）

担当部署：植物生態研究領域、森林昆虫研究領域、森林作業研究領域、森林機械研究領域、経営政策研究領域

研究期間：平成 17 ～ 19 年度

1. 目的

放置林分の増加や主伐の手控えが増加傾向にあり、省コストの間伐作業やボランティアによる森林整備が試みられているが、森林の機能区分、森林認証制度などを意識した制限的な施業基準と、列状強度間伐等の粗放な省コスト作業のトレードオフ関係が不明なまま進められている。本研究は、様々な条件に応じた適切な間伐方法を選択し、実行できる処方箋を示すことによって、問題解決を目指す。

3. 評価委員の氏名（所属）

横井秀一（岐阜県森林科学研究所育林研究部 専門研究員）

4. 評価結果の概要

要間伐林分の取り扱いは緊急に解決を要する社会問題ともなっており、本研究の必要性は高い。個別の実施課題については、これまでの研究蓄積と今回の研究計画から見て、それぞれの目標は達成できると考えられる。しかし、各実施課題で得られた知見を本プロジェクト研究の成果として総合する化具体的計画については不十分であり。担当者でよく議論し、「わかりやすい・使いやすい」成果を提供する方法を検討すべきである。

5. 評価において指摘された事項への対応

各担当者とも、それぞれの知見を統合する必要性を強く認識している。同時に、それが簡単でないことも良く承知している。そのため、初年度から、林業地域のモデルを想定し、各データを当てはめる作業を開始することとした。